



▲成法寺観音堂聖観音菩薩坐像

伊北郷の初見史料は、只見町梁取の成法寺観音堂（国指定重要文化財）の聖観音菩薩坐像の膝裏の墨書銘です。そこには「奥州伊北郷」「梁取村成法寺」のほか「応長元年太歳辛亥七月廿八日」「大檀那藤原三河権守宗景」などが書

かれています。応長元年は一三二二年で、鎌倉時代末になります。聖観音菩薩坐像は藤原三河権守宗景（皆川宗景）の造立によるもので、宗景は皆川宗員（孫）とされています。宗員は長沼氏三代宗泰の兄弟で、鎌倉幕府から皆川庄地頭職を与えられ、長沼氏から分出して皆川氏の祖となりました。長沼氏の初代宗政は下野国（栃木県）の長沼庄（真岡市）を本領としていました。奥州合戦後の論功行賞で、源頼朝から南山を与えられたと考えられています。皆川庄は栃木県栃木市周辺で、庄内には河原田の地名もあります。そして、宗員の子の宗義が河原田五郎と名乗っていることから、皆川氏からさらに河原田氏が分出し、宗義は河原田氏の祖とみられています。長沼氏・皆川氏・河原田氏は同族です。成法寺観音堂聖観音菩薩坐像の膝裏の墨書銘は、長沼氏一族の皆川氏が鎌倉時代末に伊北郷と深い関わりをもっていたことを示しています。

また、梁取は成法寺や館跡の存在などから中世伊北郷の中心的地域であったと思われる。伊南郷と塔寺八幡宮長帳 河原田氏については、延元元年（建武三年＝一三三六年）四月八日、南朝方の陸奥守北畠顕家が、陸奥国宮城郡の大戸下総権守隆行に恩賞として与えた所領に下野国皆川庄と「陸奥国南山内長沼河原田弥四郎跡」があります（「朴沢文書」）。この長沼河原田の表記の仕方は、長沼からである河原田との意味で、この史料からも河原田氏が長沼氏一族であったことは明らかです。ただ河原田弥四郎なる人物についての詳細は不明です。「塔寺八幡宮長帳」の享徳二

鎌倉時代末の伊北郷は長沼氏の同族の皆川氏が支配していたのではないのでしょうか。伊南郷は河原田氏、そしてこれ以外の郷は長沼氏が支配していたものとみられます。

伊北郷と成法寺観音堂 聖観音菩薩坐像

▼今月号から柳内壽彦先生の6回にわたる連載がはじまります。内容は、只見町に残る中世の記録や塩沢の矢沢家の陶磁器を解説していただきます。▼柳内先生は、県立高校で日本史を教えるかたわら、会津地方の板碑や中世史の研究をされ、会津若松市史、喜多方市史、下郷町史などの執筆をされています。現在は、福島県中世史研究会に所属し、会津の中世を精力的に調査されています。

▼今月号から柳内壽彦先生の6回にわたる連載がはじまります。内容は、只見町に残る中世の記録や塩沢の矢沢家の陶磁器を解説していただきます。▼柳内先生は、県立高校で日本史を教えるかたわら、会津地方の板碑や中世史の研究をされ、会津若松市史、喜多方市史、下郷町史などの執筆をされています。現在は、福島県中世史研究会に所属し、会津の中世を精力的に調査されています。

また、梁取は成法寺や館跡の存在などから中世伊北郷の中心的地域であったと思われる。伊南郷と塔寺八幡宮長帳 河原田氏については、延元元年（建武三年＝一三三六年）四月八日、南朝方の陸奥守北畠顕家が、陸奥国宮城郡の大戸下総権守隆行に恩賞として与えた所領に下野国皆川庄と「陸奥国南山内長沼河原田弥四郎跡」があります（「朴沢文書」）。この長沼河原田の表記の仕方は、長沼からである河原田との意味で、この史料からも河原田氏が長沼氏一族であったことは明らかです。ただ河原田弥四郎なる人物についての詳細は不明です。「塔寺八幡宮長帳」の享徳二

鎌倉時代末の伊北郷は長沼氏の同族の皆川氏が支配していたのではないのでしょうか。伊南郷は河原田氏、そしてこれ以外の郷は長沼氏が支配していたものとみられます。

▼今月号から柳内壽彦先生の6回にわたる連載がはじまります。内容は、只見町に残る中世の記録や塩沢の矢沢家の陶磁器を解説していただきます。▼柳内先生は、県立高校で日本史を教えるかたわら、会津地方の板碑や中世史の研究をされ、会津若松市史、喜多方市史、下郷町史などの執筆をされています。現在は、福島県中世史研究会に所属し、会津の中世を精力的に調査されています。

▼今月号から柳内壽彦先生の6回にわたる連載がはじまります。内容は、只見町に残る中世の記録や塩沢の矢沢家の陶磁器を解説していただきます。▼柳内先生は、県立高校で日本史を教えるかたわら、会津地方の板碑や中世史の研究をされ、会津若松市史、喜多方市史、下郷町史などの執筆をされています。現在は、福島県中世史研究会に所属し、会津の中世を精力的に調査されています。

▼今月号から柳内壽彦先生の6回にわたる連載がはじまります。内容は、只見町に残る中世の記録や塩沢の矢沢家の陶磁器を解説していただきます。▼柳内先生は、県立高校で日本史を教えるかたわら、会津地方の板碑や中世史の研究をされ、会津若松市史、喜多方市史、下郷町史などの執筆をされています。現在は、福島県中世史研究会に所属し、会津の中世を精力的に調査されています。

▼今月号から柳内壽彦先生の6回にわたる連載がはじまります。内容は、只見町に残る中世の記録や塩沢の矢沢家の陶磁器を解説していただきます。▼柳内先生は、県立高校で日本史を教えるかたわら、会津地方の板碑や中世史の研究をされ、会津若松市史、喜多方市史、下郷町史などの執筆をされています。現在は、福島県中世史研究会に所属し、会津の中世を精力的に調査されています。

同時代史料が語る只見の歴史① 成法寺観音堂聖観音菩薩坐像の墨書銘 — 伊北郷の初見史料 —



福島県中世史研究会

柳内 壽彦



▲聖観音菩薩坐像の内部と膝裏の墨書銘